



こんな本も読んでみましょう

作：小川 未明

「牛女」

お母さんは死んだあとも子どもを思っていた？

ある村に「牛女(うしおんな)」とよばれる、せが高い大きな女が男の子とくらしていました。牛女はよくはたらき、子どもをとてもかわいがりましたが、びょうきで死んでしまいます。母おやをこいしく思っていた子どもは、冬のある日、大きな山のまっ白な雪の上に、牛女のすがたがはっきりと黒くうき出したのが見えて…。

作：小川 未明

「金の輪」

金の輪をまわす、ふしぎな少年はだれ？

びょうきがなおったばかりの太郎(たろう)は、2日つづけて、家の前を金の輪(わ)を2つまわしながら走ってくる少年を見ました。そのことをお母さんに話しましたが、しんじてくれません。太郎は、その少年から金の輪を1つわけてもらって、2人で走って赤い夕やけの空に入ってしまう夢を見ました…。

アンデルセン童話

「人魚姫」

「赤いろうそくと人魚」は日本の人魚のお話。では、外国の人魚のお話は？

人魚(にんぎょ)の姫(ひめ)は、あらしにあってなんぱしたふねから、人間の王子をたすけます。人魚は人間の前にすがたをあらわしてはいけない決まりでした。でも王子にこいをしてしまった人魚姫は、魔女(まじょ)に、声とひきかえに、しっぽを人間の足にしてもらって…。

作：末吉 暁子

「にんぎょのいちごゼリー」

人魚が作ったゼリーは、どんな味？

とおい南の海に、ゼリー作りがじょうずな、チッチという人魚の女の子がいました。チッチがつくるゼリーは、青い海の色をした うみいちごのゼリー。このゼリーがおいしいと、ひょうばんになって、船(ふね)でおきゃくさんがたくさんやってきたから、さあたいへん…！